

広報

## 環境カウンセラーちば

第62号

特定非営利活動法人  
環境カウンセラー  
千葉県協議会

環境カウンセラーは、環境省により認定された環境に関する専門家です。  
地球温暖化対策、廃棄物対策、環境教育・環境学習、環境経営など、お気軽にご相談下さい。

## 第6回環境カウンセラー環境保全活動表彰を受ける

当協議会は、環境省の「第6回環境カウンセラー環境保全活動表彰」において、総合環境政策統括官賞【自然共生社会貢献賞】（事業者部門）に選ばれ(令和6年2月19日環境省発表)、表彰状を授与されました。

この表彰制度は、特に優れた環境保全活動を行った環境カウンセラーの個人および団体に対して、その活動を讃え、社会に広く周知するために環境大臣や総合環境政策統括官が表彰するもので、今回は環境大臣賞に市民部門1名・事業者部門1名、総合環境政策統括官賞に市民部門4名・事業者部門4名が選ばれました。



この表彰において、環境

カウンセラー千葉県協議会が高く評価されたのは、大多喜町と連携して環境教育プログラム「わくわく探検隊」を開催し、水辺の学習や水力発電所見学を行うほか、浄化槽講習会や「水環境体験教室」を通して南房総の豊かな自然と水環境の保全活動推進に取り組んでいること、また、学校や自治体が行なう研修会・講習会等に講師を派遣するとともに、県内の企業を対象とした環境セミナーを開催してSDGsの取組みを

進めていることなどです。なお、今回の受賞者による「環境カウンセラー環境大臣表彰受賞者活動報告会」が3月3日に埼玉会館で行われ、当協議会からも私たちの活動内容を報告しました。

## 【主な活動】

- ★多喜町環境教育プログラムを開催  
(2017年7月～2023年7月・5回開催)  
[養老川での「水辺の生きものしらべ」と水力発電所見学]
- ★企業環境セミナーを開催(1998年から毎年、1回/年)
- ★千葉県主催「浄化槽啓発講習会」への講師派遣  
(実施期間 2008年1月～2023年3月)
- ★水環境体験教室を開催(小・中学校で体験型授業として)
- ★講演・講座・研修へ講師を派遣(2004年から実施。現在も継続中)
- ★「うちエコ診断」の実施(家庭での省エネルギー・二酸化炭素削減に貢献)
- ★この他に環境公開講座、自然観察会、施設見学会を開催

2017.7.16 面白峡水力発電所  
水圧鉄管を背景にした参加者



【環境カウンセラー登録制度ホームページ <https://edu.env.go.jp/counsel/>】

環境カウンセラーの登録募集は、毎年8月に行われます。7月はじめに募集の要綱が発表されますので多くの方にご登録いただき、私たちと一緒に活動いただけると幸いです。

応募のしかたについてご説明しますので、当協議会事務局までご連絡ください。

## 開催報告

## 第5回大多喜町環境教育プログラム

事業部

南房総は、起伏が多く大規模農業などには向かず、春は梅、桜、つつじと続き、秋は紅葉と、自然が豊かで観光には好適である。しかし人口の減少がはげしく、過疎化防止に歯止めをかけることが喫緊の課題である。

ここに住まう子どもたちに、この豊かな自然と、約100年前に建設され昭和の時代まで稼働した面白峡水力発電所が、10年前から復活稼働していることを知ってもらい、自然を愛し、ふるさとの発展を心掛けてもらうイベントとして、2017年から「大多喜町環境教育プログラム わくわく探検隊～自然となかよし～」を大多喜町教育委員会の後援をいただき、大多喜町役場及び面白峡水力発電所の管理をされる(株)関電工殿の協力のもとで行ってきた。

このイベントは、地域の小学校高学年の子どもたちを対象に養老川の最上流の水辺の生きものしらべと面白峡水力発電所の見学であり、毎年、夏休み前に実施することで取り組んできたが、新型コロナの感染防止のための取りやめもあって、2023年8月6日に第5回を開催した。

参加者募集は、大多喜町の小学校と周辺市町の教育委員会を通じて管内の小学校に協力をお願いしている。

参加者募集が終業式直前で遅かったためか、参加応募子どもたちは以前より少なく6名と少なかった。

第4回から保護者にも参加してもらうこととし、5名に参加していただいた。

水辺の生きものしらべは、大多喜町が養老川沿いに新たに建設された遊歩道に沿った浅瀬で行った。「大きなお魚がいるかも？」と期待した子どもたちもいたが採集できず、途中でわか雨も降るなかで、ドジョウやカニを集めて大喜びだった。

昼食後、折り紙で「かざぐるま」を製作し、風が強いと勢よく回ることを実感し、水の流れに水車をおくとその力で発電することを理解し、面白峡水力発電所の歴史となりたちの話を聞いて見学に向かった。

面白峡水力発電所では、(株)関電工殿の水車の模型を使っての説明を聞き、43mの落差で流れる水のエネルギーが電気に変わることを子どもたちは実感した。

その後、大多喜町基幹集落センターに戻って、子どもたちに本日の見たこと、感じたことを色鉛筆で絵に描いてもらい、一人ずつみんなの前で発表してもらったが、このイベントのめざす期待通りの認識が得られている立派な発表であった。(事業部 國廣 隆紀)

## 開催報告

## 水環境体験教室

水環境対策センター

## 1. 2023年度「水環境体験教室」実績

開催日	開催場所	対象	参加者
2023. 12. 19	船橋市立豊富小学校	4年生	24名
2024. 1. 26	野田市立南部小学校	4年生	141名
2024. 2. 27-28	船橋市立船橋中学校	2年生	189名

## 2. 船橋市立豊富小学校

2023年10月、船橋市教育委員会経由で船橋市立小学校55校へ「水環境体験教室」を紹介したところ、豊富小学校4年担当先生より当会へ問い合わせがあり船橋市立小学校での初めての開催となった。(講師：井町)

テーマは「水環境について考えよう!」。パワーポイントを使用し水の循環から始まり、水の利用、地球にある水、水の性質、家庭で使用する水と汚れ、生活排水を浄化しないとどうなるか、浄化槽や下水処理場の家庭排水処理、国際目標SDGsについての話。続いて児童2名が参加した“皿洗いの汚れ対策”の実習をおこない、本日のまとめで45分間の講習を終えた。

来年度以降も多数の小学校で実施できるよう水平展開して行きたい。

## 3. 野田市立南部小学校 (下記写真)

2021年度より連続開催で今回は3回目。1時限目は4クラス合同で体育館にて対面式参加型講習をおこない、その後、各クラス別に家庭科室にて実習を4回行った。(講師：久保田副センター長および井町)

## 4. 船橋市立船橋中学校

船橋市の中学校では初めての開催。昨年6月第26回ふなばし環境フェアの当会小間に来場された理科担当の先生が「水環境体験教室」に関心を持たれ今回開催できた。2月27日3クラス、2月28日2クラスの計5回実施(各50分間)。

テーマは「水環境を守る!身近なSDGs」で、講習中に実習“トイレトペーパー、ティッシュペーパーおよび流せるトイレクリーナー3種類の分解実験”を一つ生徒に参加してもらい行った。

(講師：久保田副センター長および井町)



(水環境対策センター長 井町臣男)

## 開催報告

## エコアクション21普及セミナー開催

EMS 支援センター

2023年8月30日午後、エコアクション21地域事務局の(一財)千葉県環境財団及び千葉商工会議所との共催で、千葉商工会議所第2ホールにて例年通り「エコアクション21普及セミナー」を開催した。

エコアクション21(EA21)は、環境省のガイドラインにもとづいて、省エネルギー・二酸化炭素の排出抑制・廃棄物の削減・水使用量の節減などの目標を設定して活動する仕組みである。これら環境負荷の直接的な低減だけでなく、その結果が企業価値向上につながる。例えば、サプライチェーンを通じて中小企業にも求められる要望にも対応できる。

セミナーは次のように4部で構成とした。

まずは、倉阪秀史氏(千葉大学大学院 社会科学研究院 教授)より「脱炭素社会に向けて企業が行わなければならないこと」と題して、今後10年を見据えたロードマップ(GX実行会議)の内容、脱炭素先行地域政策、千葉大の学生主体EMS運用等について基調講演をいただいた。

次に、2004年に県下第1号としてEA21を認証取得された(株)永光自動車工業様より、コスト削減や生産性向上、社外的にはブランディングが向上したとのEA21運用の事例紹介を受けた。

続いて、県下第2号として認証取得されたアシザワ・ファインテック(株)様からも事例紹介をいただいた。自社の強みをさらにプラスにする意識改革の効果があり、電池の小型化や微粉末製造の低動力化などの開発につながっていると事例紹介があった。

最後に、EA21の認証・登録の手続き及び活動のメリット等に関してEC千葉から説明した。

講師を含めて総勢37名の参加があった。また、セミナー終了後の個別相談では3社から申し出があり、EC千葉の審査員がそれぞれ

対応した。うち1社に認証取得まで数回のコンサルタ



ントをすることになった。  
(主担当：有馬富穂)

## 開催報告

## 第26回企業環境セミナー開催

EMS 支援センター

2024年10月25日、25年前から継続している「企業環境セミナー」の第26回を千葉商工会議所と共催で千葉商工会議所にて開催した。

ISO 14001(EMS)及びISO 9001(QMS)は共に2015年版で、事業の発展をめざすものであるが、認証取得件数は高止まりの傾向となっている。

ISOに取り組むことで企業価値を高めることは、SDGsの目標達成にもつながるので、企業環境セミナーのテーマとして、3年前から『ISOの運用で、SDGs活動を推進しよう』として続けている。

今回は33名の出席のもとに、冒頭に環境政策を担っておられる千葉県環境生活部環境対策監の熱田みどり様から来賓あいさつをいただいた。

基調講演として、ISOの審査機関である(株)日本環境認証機構 審査本部の技師長 水上浩様が、「ISOが融合した事業マネジメントシステムによりSDGsを加速する」と題して、ISOの取組みは、企業の事業から離れた別業務ではなく、事業の各プロセスに組み込んで、ツールとして活用することが肝心と述べられた。

複数のISOマネジメントシステムが融合した事業マネジメントシステムのパフォーマンスを向上させて事業の発展を実現し、さらには企業の持続的可能性を求めて、事業活動にSDGsの視点からのイノベーションを組み込むことが重要と講演された。

次いで2社から事例紹介をいただいた。

高機能樹脂メーカーの大成ファインケミカル(株)の代表取締役社長 稲生豊人様から「SDGsを活かした守りと攻めの事業推進」と題し、企業の社会的責任(CSR)の中核課題分野における自社のリスク(守り)と機会(攻め)の取組みにSDGsを意識し、ISOの仕組みを活用していると紹介があった。

また、廃油処理業の(株)TOA シンプルの経営管理本部広報室 成田光様からは、「「誰ひとり残さない」フレキシブルなSDGs経営 ～keep doing 繋げよう未来へ～」と題し、「自然と共に生きる未来を創造する」をめざし、三つの重要テーマ「再資源化、脱炭素社会、豊かな生活」から具体的テーマを設定し、SDGs目標とひもづけて活動していると紹介された。

ISOの取組みとSDGsの繋がりに関心をもって参加された方が多かったが、納得されたようであった。

(EMS支援センター 國廣 隆紀)

## 開催報告

## ISO 内部監査員養成講座

EMS 支援センター

2023年度も例年同様に千葉商工会議所と共催でISO 14001およびISO 9001の内部監査員養成講座2日間のコースをそれぞれ2回開催した。会場はいずれも千葉商工会議所14階第2ホールを使用し、新型コロナウイルス感染リスクの軽減策として、間隔を保った座席配置、入念な換気、マスク・消毒の奨励等の対策を実施して臨んだ。講師は経験豊かなEC千葉会員が担い、各講座を合わせて計67名の参加者があった。

- ・ISO 14001(第38回) 6/14(水)-15(木) 計15名
- ・ISO 9001(第34回) 6/27(火)-28(水) 計13名
- ・ISO 14001(第39回) 11/15(水)-16(木) 計6名
- ・ISO 9001(第35回) 11/29(水)-30(木) 計22名

ISO 14001およびISO 9001は、共に組織の事業プロセスや戦略的な意思決定に統合してリスクおよび機会に効果的に取り込むことを求めており、それによって企業価値の向上につながる。この実現のための考え方およびISOの運用要領について冒頭で解説した。さらに、ISO(特にISO 14001)活動が昨今多くの組織で展開されようとしているSDGsの取組みにも有効であり、そのための運用要領についても説明した。内部監査員はこれら運用要領の適格性をチェックする役割を担っていることをまず理解してもらった。

内部監査の要領を習得するには、講義で習得した内容を即実習することが有効である。そのため、本講座では数人のグループに分かれて実施するケーススタディ演習(アクティブラーニング)に多くの時間(8時間以上)を割いた。終了後のアンケート調査でも、演習を体験によって理解が深まったとの意見を多く頂いた。

(講師 小林 亨)



## 活動報告

## EMS 研修会

EMS 支援センター

毎月、EMS支援センターでは研修会と運営連絡会を開催している。研修会は、2008年発行の記念誌「10年のあゆみ」に2000年のセンター設立当時から継続実施されていると記されている。設立時の研修会は、ISO 14001関連のテキストを用いたゼミ形式であったとのこと。現在は、センター員の自己研鑽内容を自主的に発表してもらい共有化してみんなで知識力を高めている。20数年にわたって継続されていることはすばらしい。

テーマはISO 14001関連に限らず、環境マネジメント全般、エネルギー関連、地球温暖化関連等と広範囲に及んできた。それゆえ、センター員に限らず多くの会員と研鑽したいとの考えで、2023年5月からEC千葉会員全員に研修会の開催案内をしている。

下表に2023年度の研修会開催結果を示す。幸い、自主的に発表申し出が続き、毎月開催することができた。ただ、申し出が数人のセンター員に限られている。解決すべき地球環境問題への対応としても環境マネジメントシステムが益々重要になってきている。みんなで情報を共有する場としましょう。

(EMS支援センター長 山畑祐哉)

開催日 (R5年度)	担当者	テーマ(一部短縮)	参加者 (Zoom含)
4月2日	服部達雄	日本の技術力(研究・開発力)の低下、目を覆いたい惨状!!	11名
5月7日	荒野詰也	カーボンニュートラルのためのグリーン成長戦略と次世代原子炉	12名
6月4日	橋本 正	EA21環境関連法規等の取りまとめ表・遵守評価記録(教材用)	9名
7月2日	橋本 正	山形博士の講演を聞いて～学んだこと、そして何を考えるか～	11名
7月30日	山畑祐哉	CO2 見えざる生命の創造者～知られるざる姿に迫る～(NHK放送)	14名
9月3日	山畑祐哉	記念誌あゆみのEMS支援センター記事案	8名
10月8日	服部達雄	EA21普及セミナーでの倉阪千葉大学教授講演のおさらいと意見交換	11名
11月5日	荒野詰也	水素社会と水素基本戦略	10名
12月3日	國廣隆紀	企業環境セミナー基調講演の復習・意見交換	11名
1月7日	橋本 正	2023年度EA21審査員力量向上研修会内容より紹介	12名
2月11日	荒野詰也	洋上風力発電の進展～浮体式風力こそ日本の救世主～	11名
3月10日	有馬富穂	某幼稚園の省エネ診断から学ぶ	13名

## 活動報告

## 「みんなのひろば」

環境学習センター

環境学習センターの活動は、他のセンターとはちょっと異なります。環境学習センターの場合は EC 千葉会員 68 名全員のために活動しています。言い換えれば、EC 千葉会員一人一人が環境学習センター員なのです。EC 千葉設立当初から活動している当センターは、当初からこのような活動をしてきた訳ではありませんが、今の活動は上記の通りです。

このような活動の典型的なものの一つが「みんなのひろば」です。毎月様々なテーマで会員の皆様より話題提供を頂き、議論しながら会員相互の環境意識と知識の向上に努めています。また、一人でも多くの方が参加できるようにと、毎回会場とオンラインの併用で進めています。

2023 年度においても、「自然を身近に ～自然に触れ、生態系の豊かさから学ぶ 生きぬく力～」、「基礎から分かる ISO マネジメントシステム」、「これまでの COP の経緯と COP28 の舞台裏」など様々なジャンルの大変興味深い 9 件の話題提供があり、活発な意見交換が行われました。

ただ、残念なのは、毎回の参加者が 10 名前後と少ないことと、話題提供者が固定化してきていることです。EC 千葉会員の皆様には、この機会を会員のメリットと捉え、話題の提供も含めて是非積極的にご参加頂けることを心よりお待ちしております。

(環境学習センター副センター長 中村 仁)

## 2023年度〈みんなのひろば〉話題提供記録

開催月	話 題 (テーマ)	講 師
2023年6月	自然を身近に～自然に触れ「生態系の豊かさから学ぶ 生きぬく力～	石松茂子
2023年7月	エクセル、便利な関数や機能のご紹介	小林 亨
2023年8月	持続可能な社会の実現と環境教育の現状	吉田昌弘
2023年9月	基礎から分かる ISO マネジメントシステム、	志澤達司
2023年10月	北千葉導水路」からの湖沼の「治水・利水・浄水(浄化)を考える」	井町臣男
2023年11月	津波の痕跡の調べ方	棒 一夫
2023年12月	使ってみて初めて分かる「電気自動車の良し悪し」	中村 仁
2024年1月	沸騰する地球～2023 気候変動が生む負の連鎖	佐藤ミヤ子
2024年2月	これまでのCOPの経緯とCOP28の舞台裏	吉田昌弘

## 実施報告

## 自然観察会 (GSSP を訪ねて)

環境学習センター

2023 年度の自然観察会は、GSSP を訪ねてという副題のとおり、ヨーロッパ圏以外で初めて「国際境界模式層断面とポイント(GSSP)」と認定され、地質年代の呼称として全世界で使用されることとなった「チバニアン」の地層についての学習と、千葉県の代表的ローカル路線小湊鉄道のトロッコ列車から見る紅葉をテーマに 11 月 25 日に実施した。

チバニアンのある養老溪谷周辺は、9 月に接近した台風 13 号の大雨により大きな被害が出た。このため、いつごろ、見学が実施できる状況まで復旧するかをうかがっていたところ、募集の時期が遅れてしまい 8 名の参加にとどまった。

普段、あまり馴染みのない地質年代に関わる内容だったが、解説をしていただいた NPO の田淵チバニアンズの方は、専門知識がしっかりされていて、参加者の方からたくさん出た質問にも、丁寧にお答えいただいた。

帰りに乗車したトロッコ列車は、レトロな造りで風情があり車外に見える紅葉も良かったが、停車駅が少ないためスムーズに帰路につけるかと思いきや、スローな運行と硬い木製の椅子席で少々忍耐が必要だった。

今回で 2 回目の自然観察会の運営だったが、募集が遅れたことの他に、最寄り駅の月崎駅から見学箇所までの遊歩道を事前下見できていなかったため、参加の皆さんに少々無理をお願いしたことは反省点で、確実な下見を行うことが重要と痛感した。また、今後、できれば、「みんなの広場」と連携して、事前に訪問先について学習してから観察会に向かうなど、より、知見を広められるような工夫をしていくことで、参加者数が少しでも増えることを期待したい。

(環境学習副センター長 棒 一夫)



## 実施報告

## 「北千葉導水ビジターセンター」見学会

(水環境対策センター)

2023 昨年 9 月 26 日(火)、国土交通省関東地方整備局利根川下流河川事務所が管理している「北千葉導水ビジターセンター」を見学した。参加者 9 名。

北千葉導水路の役割である「治水、利水、浄化(手賀沼の浄化)」について、関東地方整備局職員および当センター員の説明付き 60 分間コースを体験した。

まず 2 階のフロアで当センターの概要、北千葉導水路の空撮模型による全容、移送ポンプの上部の説明があった。次に地下へ移動し、揚水ポンプや送水管などを見学。2 階に戻り、巨大貯水池、パネルコーナーを見た後、シアターで北千葉導水路や利根川の川づくりや水防などの現況を映像で学んだ。その後、3 階にある自然観察コーナーから手賀沼を一望。手賀沼と快適な暮らしのための取り組み紹介コーナーをみて終わる。

北千葉導水路(流況調整河川)は利根川の下流部と江戸川を結ぶ約 28.5 km の導水路で、地下を 2 本の埋設管が通っている。この施設は 1974 年に着工し 2000 年に全体が完成した。1 級河川に該当するため千葉県ではなく国が管理している。

役割を維持するための管理は、施設の老朽化や管内の清掃など課題も多いようである。

平日の団体申込みでは、河川管理事務所のガイド説明や通常見学できない地下室のポンプや導水管などの見学ができ、参加者一同新たな見識を深めての解散となった。(水環境対策センター長 井町臣男)



## 出展報告

## 「第 26 回ふなばし環境フェア」に参加

事業部

2023 年 6 月 24 日(土)、ふなばし三番瀬海浜公園・環境学習館にて開催された「第 26 回ふなばし環境フェア」に今年も実行委員として参加した。環境フェアの今年のテーマは、「環境にやさしい船橋をめざして～考えよう！みんなができること～」。

出展は 39 団体(市民団体 14 団体、事業者 15 団体、学校 3 団体、行政 7 団体)。来場者数は約 2,500 人(昨年:2,413 人)で、多くの親子連れが来場した。



EC 千葉の出展内容は「私達は、より良い環境を次の世代に残していきたい」とし、小間では来場者に風船を膨らませてもらい吐く息の CO2 濃度を測定。地球温暖化の現状や課題などについて一緒に考えた。

子供から大人まで 50 名(昨年 40 名)の方々が興味を持って体験した。50 名の内訳を見ると、男性 25 名および女性 25 名。そして、大人:26 名、大学生:6 名、中学生:3 名、子供:15 名であった。

風船を膨らませたことのない子供や、久しぶりに風船を膨らませた大人など楽しみながら、吐く息にある二酸化炭素濃度を初めて知った人たちが多かった。

今年は、吉田、佐藤ミヤ子、捧、井町の 4 名で来場者対応し、吐く息の CO2 濃度測定のほか、「うちエコ診断」や「水環境体験教室」など当会の環境保全活動を幅広く紹介、EC 千葉への新規入会の誘いも行った。(井町臣男)

## 出展報告

## 「エコmesse 2023 in ちば」に参加

事業部

10月15日(日)(10:00~16:00)幕張メッセ国際会議場2Fで開催された「エコmesse 2023 in ちば」に今年も継続して二小間出展した。一つは当会の活動紹介と仲間作り(対応:河井、捧、中嶋、佐藤)、もう一つは「うちエコ診断(簡易)」(対応:吉田、中村)であった。

今回の出展の狙いは、「環境カウンセラー千葉県協議会ってどんな活動をしているの?」の疑問への〈理解と仲間づくり〉にあった。来場者と共有・共感できる話題からの対話も〈仲間づくり〉の一つであると考えた。

当日は強風と氷雨、来場者の出足も当初は鈍かったが、徐々にその数を増した。このような天候下にも拘わらず会場に足を運び、多くの方が私たちとの対話に応じて下さったことの意義は大きいと感じている。

そして、2024年度総会時「特別講演」の講師を承諾くださった千葉大学名誉教授の近藤昭彦先生も、対話に応じて下さったお一人だったことを記しておきたい。

また、「うちエコ診断(簡易)」の吉田および中村による診断コーナーは、席が空くことのないほどの受診者対応が続いた。本来の環境省認定「うちエコ診断」ではなかったが、多くの方々にCO2排出削減と光熱費節約体験をいただけたことは一つの普及啓発に繋がったのではないかと思っている。

次年度は、より多くのEC千葉の仲間、各センター長、副センター長がこの場で直接、来場者と対話する機会を持っていただける事を願っている。

それらの時間は、きっと価値ある時間になっていただけるものと考えます。(事業部長 佐藤ミヤ子)



## 活動報告

## ナガエツルノゲイトウの駆除作業に参加

廃棄物対策センター

最近、関東以西の河川、水路水田などで南米原産の多年草の特定外来生物であるナガエツルノゲイトウが急速に繁殖している。

当センターもその駆除に協力することとし、活動方針にあげているが、2023年8月9日の県環境生活部循環型社会推進課との意見交換でも深刻な問題として対策に着手されていた。

2023年10月1日(日)、白井市のしろい環境ネットワーク(SENの会)が主催するナガエツルノゲイトウ駆除作業に、EC千葉としてこの問題に初めて1名参加した。SENの会の秋井会長に早朝からピックアップしていただいた。桜で有名な今井地区の金山落としには業者も含めてボランティア30人近くが集合した。

農業用水の水門付近から下流の5か所のナガエツルノゲイトウの群落がある川にバカ長靴を履いて入った。

ベテランリーダーの竹内さんが土手から指示を送る。

風で運ばれた砂が川に堆積して洲を作ったところにナガエツルノゲイトウが深くまで根を張って繁殖し、その一部が流れて田畑をも荒らす。

草も水気があるのでかなりの重労働、中一回休憩が入るが水の中での作業でもあり、また足元が石のところやシルトのところもあって足がとられることもある。

水中ジェットノズルで足元の泥を跳ね飛ばし、熊手や鎌で取ったものを買い物かごに入れて浮かせ、船に積んで下流に運び、バックフォアやクレーンで上げて、トラックで運び、広いところで天日乾燥して、その後焼却処理される。

手賀沼の水浄化対策にもなり、駆除によって農家の方々にも大いに感謝されるやりがいのある作業であるし、何より、白井高校の生徒のみなさんが多く参加して環境教育を実践していることは大変頼もしい限りである。

(廃棄物対策センター長 中嶋 滋)



## 新入会員紹介

### 青砥 望 (あおと のぞみ) 佐倉市

資源循環・産業廃棄物処理業界で、広報室兼サステナビリティ推進を担当しています。廃棄物処理という静脈産業の理解度・認知度向上に取り組む上で、SDGsカードゲームのファシリテーターの資格を取得。小学校から企業の方々まで、様々な方々に環境教育、SDGs体験をして頂いています。「地球の限界」が近づいている今、個人として企業として、団体としてできることから取り組みたいと会員にさせて頂きました。よろしくお願いたします♪

### 香取仁義 (かとりひとよし) 千葉市

昨年12月に入会しました。前職は住宅メーカーでの工事監理業務で、そこでの環境保全に関わる作業は現場から排出される産廃物の分別管理でした。建築と一方では破壊行為という狭間で疑問を抱いたことがありました。仕事を引退後も社会と関わりたく、環境保全活動を選択しました。知識や経験は皆無ですが、郷里出身の伊能忠敬に倣い一心発起し、一から学んで行きます。どうぞよろしくお願いたします。

## 《事務局からのお知らせ》

### 第22回通常総会および特別講演会の開催

NPO法人環境カウンセラー千葉県協議会の第22回通常総会を定款24条により次のとおり開催します。

なお、総会に先立ち総会特別講演会(「環境公開講座」としてEC千葉会員外にも公開)を開催し、特別講演会に続けて同じ会場で総会を行います。

- 日時 2024年5月25日(土) 13時30分～16時30分  
[受付開始:13時]
- 場所 千葉商工会議所会議室
- 特別講演会 [13:30～15:10]  
講師: 千葉大学名誉教授 近藤昭彦氏  
演題: 人、自然、社会の関係を整える 職業科学と市民科学
- 通常総会 [15:30～16:30]  
議事 第1号議案 2023年度事業報告ならびに決算報告  
第2号議案 2023年度監査報告  
第3号議案 2024年度事業計画案ならびに予算案
- 案内 5月はじめに往復ハガキでご案内します。

### 設立25年記念誌の発行

1998年2月に設立された当協議会は昨年25周年を迎えることができました。そこで、これまでの25年間の活動をまとめた記念誌「環境保全活動25年のあゆみ」を発行することにし、一昨年10月以来編集委員会を設け編集を進めてきました。それがようやく完了し、来月には会員の皆様へ配布できるようになりました。原稿を寄稿・投稿していただいた方々に感謝申し上げます。

どうぞ期待して配布をお待ちください。

広報 環境カウンセラーちば 第62号 (発行日 2024年3月20日)

発行: 特定非営利活動法人 環境カウンセラー千葉県協議会 (責任者: 広報部長 山畑祐哉)  
(編集担当: 服部達雄)

事務局: 〒273-0047 船橋市藤原6-1-7

(E-mail) ecchiba\_jimukyoku@ecchiba.sakura.ne.jp

(URL) <https://ecchiba.sakura.ne.jp/>

<年会費等の振込先> 郵便振替口座 00110-5-34692

(加入者名 NPO法人環境カウンセラー千葉県協議会)